



ふれあいバザールは、子どもたちにとって初めの一歩を踏み出すきっかけの場となっている

地域づくりのきっかけ

活動を始めた当時のメンバーは、幼い子どもを抱えながら片品村で暮らす30歳前後の母親たちでした。以前からこの地域で生活するにあたり、「こんなことがあったらいいのに」と思う一方で、「どうかこの状況を変えなければいけない」という共通した思いがありました。

折しもその頃、長野県でオリピックを開催することが決定しました。長野県で環境整備が進められたことで、同じスキー場を抱える観光地であるこの村からスキー客の流出が懸念されるようになったことが皆の気持ちに拍車をかけ、「誰かに頼っても仕方ない」「私たちに頼ることにしよう」と思われ、何かが変わるかもしれない」と考えるようになりました。そう思ったことがきっかけとなり、一住民として自分たちの手でこの村を活性化し、自らの人生を楽しむため、活動を始めました。



エンジョイネットワーク片品 入澤 眞理呼さん

んでもらうために実施しています。他にも、お姉さんに教わりながらストリートダンスを始めた子どもたちが、ふれあいバザールで発表したいと言い、ステージをセッティングしたところ、その発表で自信をつけ、他の大会に出場したということもありました。

だが、関わったスタッフは1000人を超えました。それだけ皆の思いが熱かったのだと思います。その他にも、環境に優しい商品や取組を提案する「村消費生活展」への参加や、「放射能を正しく学ぶ会」など、村民にとって関心がある様々な分野の勉強会を不定期に開催しています。

メンバーの役割を尊重し合う

当会は、活動の中心となるコアメンバーや、イベントに参加したリンクメンバーで構成されています。個々のメンバーがキーパーソンとなつて情報発信をし、新たにネットワークを構築することによって、様々な人や活動を結びつけるシナプス※のような役割を担っています。

活動するにあたっては、年齢や職業、肩書きなど様々なしながらみが生じがちですが、それらを超越して、それぞれの個性や役割をお互いに自覚・尊重し合い、ワクワクを楽しむながら育て合うことを私たちは大切にしています。

地元の宝とふれあう場所

主な活動として、平成5年から現在まで毎年開催している「宝さがし in 片品 ふれあいバザール」があります。ふれあいバザールでは、地元の食べ物や菓細工など手作りの作品を扱う店が並ぶほか、尾瀬高校の生徒によるネイチャークラフトの体験教室、尾瀬太鼓の生演奏などが行われます。また、その中では「子どもフリーマーケット」というコーナーも設けています。このフリーマーケットは、今まで使っていたおもちゃや手作りの物などを出品するという体験を通じて、子どもたちに物の大切さやお客さんとの会話や交渉といった心の交流の大切さを学



2011年のふれあいバザールの様子。南相馬から片品村に定住した夫婦の三味線と民謡が会場に響き渡った

「地域の宝を活かしたネットワークづくり」

エンジョイネットワーク片品 入澤 眞理呼さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介して参ります。第14回目は、エンジョイネットワーク片品の入澤 眞理呼さんにお話を伺いました。



印象に残る人物

白州次郎、吉田松陰です。

感銘を受けた本

「モモ」「風の谷のナウシカ」です。表面のストーリーの奥に潜む深いメッセージが読み取れる本だと思います。

好きな言葉

「無駄なものは何一つない」「たおやか」という言葉が好きです。同じ時代に、同じ地域に生きているというご縁や、女性らしいしなやかな発想を大切にしていきたいです。

村の応援団

「地元の人たちと一緒にもつと何かできないか」という思いから、村で初めての6次産業のグループを立ち上げました。片品村の方言で、家庭菜園を意味する「せつづえば」という名前が活動しており、片品村の農産物を使った総菜や菓子を製作して地元や東京など様々な場所で販売を始めました。

また、地元の若い農業従事者たちも野菜の通販など、新しい活動を始めており、そういった若い人たちについても影でサポートしていきたいと思っています。

個性を活かしたネットワーク

私たちはイベントなどを通じて、自立したり自主的に考えることが出来る仲間・未来を諦めない仲間を増やしたいと思いい、活動してきました。今後50年後、100年後を考えながら、村民の個性や暮らしが活き、ワクワクするようなネットワークづくりが出来ると活動に励みたいと考えています。

WHO IS NEXT?

次にバトンが渡る人は誰でしょう?



次号をお楽しみに!!

※シナプス…神経細胞間の接合部。